

総合情報学部

①タイトル ②著者 ③出版者 ④所在 ⑤推薦コメント ⑥推薦者

情報科学科

①ウェブ進化論：本当の大変化はこれから始まる（ちくま新書）

②梅田望夫 著 ③筑摩書房 ④11号館一般

⑤現在のウェブが革新的に変わりつつあり、その中心にGoogleの技術革新や運営方針が表れているという、その結果が社会にもたらす影響がどのようなものかを、現在の変化も伝えながら解説する、ウェブに関心がある人には必読の書物です。 ⑥北川文夫先生

①プログラマの数学

②結城浩 著 ③ソフトバンクパブリッシング ④11号館一般

⑤プログラマに必要な「数学的な考え方」を手に入れるための本です。数学的な考え方を身につけるということはプログラミングでも大きな武器となります。簡単な数学を例に挙げてそれに対する考え方を解説してあります。その他に数学的なクイズやパズルなども入っていますので、気軽に読んでもらえる本だと思います。 ⑥柳貴久男先生

コンピュータ・シミュレーション学科

①蜜蜂の生活 改訂版

②M.メーテルリンク 著；山下知夫, 橋本綱 訳 ③工作舎 ④11号館一般

⑤メーテルリンクといえば、子供の頃に児童向けの本で読んだ「青い鳥」があまりにも有名である。ここではノーベル文学賞の対象作品となった社会生活を営む昆虫の三部作の一つを紹介する。社会生活をしている昆虫世界の支配者は女王なのか、労働を担うものなのか、それとも・・・一体誰なのか。その問題意識を持って本書を読み進めていけば、興味は何倍にも増すだろう。以下に推薦する「花の知恵」とともに、自然観察の深さに驚かされるばかりでなく、科学エッセイとしても感動させられる。 ⑥藤井勝彦先生

①花の知恵

②モーリス・メーテルリンク 著；高尾歩 訳 ③工作舎 ④11号館一般

⑤“花の知性のエネルギーの振舞い方”というのが本書のテーマである。ヘリコプターの片羽のような形を持って落下運動をするもみじの種子、風に吹かれて落下傘飛行をするタンポポの綿毛などは、子供の頃からよく見てきたし遊んだりしたものであるが、いずれも親からできるだけ離れようとするためらしい。水草が自らの花茎を切って受粉する場面や、昆虫を誘って受粉する蘭の数段階もの仕掛けは何十万年かけての試行錯誤であろうかと感激させられる。 ⑥藤井勝彦先生

生物地球システム学科

①ソロモンの指環：動物行動学入門

②コンラート・ローレンツ 著；日高敏隆 訳 ③早川書房 ④11号館一般

⑤生物は遺伝子を残すための器であるという考えが研究の主流となった時代になっても、動物行動学を代表する古典的な名著の一つ。生き物に対する深い愛情とその行動に対する興味や知的な好奇心、そして正確な観察。遺伝子も数式も出てこないが生物学、自然科学の基本がある。 ⑥中村圭司先生

①地球温暖化論のウソとワナ：史上最悪の科学スキャンダル

②伊藤公紀, 渡辺正 著 ③KKベストセラーズ ④11号館一般

⑤怪しげなタイトルの本だが、内容は科学的であり、「地球温暖化」の本質をえぐり出している。地球温暖化と人間が排出するCO₂との関係、異常気象と温暖化の関係など、読んでみれば目からウロコが落ちる気がする。「気候変動」としての温暖化問題を正しく捉えるための必読書である。 ⑥鳥居雅之先生